



2021

公益財団法人
京都市
環境保全
活動推進協会
事業報告書



公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会 2021年度事業報告書

●対象期：2021年度(2021年4月1日～2022年3月31日)
●発行日：2022年12月

ミッション

～協会の使命～

サステナブルな

「京づくり」を共創する。

京都は、伝統の保全と革新を繰り返しながら、豊かな文化と歴史の蓄積、美しい自然景観を保持してきた千年の都です。この多様で奥深い魅力を培ってきたのは、みやこびと(その人づくり)であり、町のコミュニティでした。協会はこれからも、地域や住民の皆様の参加と、環境活動団体はじめ関係団体の皆様との連携による環境活動・事業展開の「仕組み」を皆様と共に創っていきます。



公益財団法人京都市環境保全活動推進協会(以下、「協会」という。)は、2001年2月に設立されました。協会は現在、京都市の環境学習施設である京エコロジーセンター(京都市環境保全活動センター)の指定管理業務等を通して、様々な主体とのパートナーシップにより「サステナブルな『京づくり』」を共創するために事業運営を行っています。本報告書は、多くの方々に事業の内容・その果たす役割・成果をわかりやすく理解いただくためのツールとして作成しています。

ビジョン

～協会が2030年に向けてめざす姿～



- 1 環境活動の輪を広げます。
環境問題を解決し、人々の行動変容を促す担い手を育成し、幅広い活躍の場をつくり出します。
- 2 協働を生み出すハブ(拠点)となります。
市民、事業者、行政による環境保全活動のプラットフォームをつくり出します。
- 3 ソーシャルイノベーションを創出します。
CO₂やごみの出ない、自然と共生したライフスタイルやビジネススタイルを普及します。
- 4 国内外の関係者・団体と連携します。

協会が持つノウハウ(人材育成・支援活動の場創り、ソフト開発等)や成果を活用します。
京都らしさとグリーンリカバリー※の視点を重視して取り組んでいきます。
※脱炭素、資源循環、自然との共生を視点として、コロナ禍の停滞した社会から回復することを目指します。

3つのアクション

～協会が取り組む重点活動～

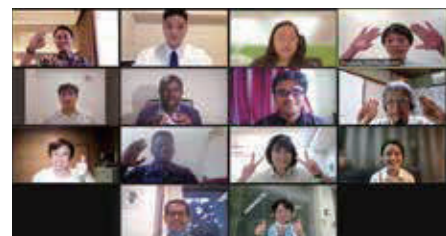
- 1 プログラムの開発・環境人材の育成
(1)地域の課題解決やライフスタイルの提案・実践、意識変化・行動変容につながる、新たな学習プログラムを開発します。
(2)環境学習施設「京エコロジーセンター」を20年にわたって運営してきた実績をもとに、小学生から大学生、一般の方、事業者等に対し、「学びや研修」の機会や場を提供・提案します。



- 2 「課題解決に向けたワンストップ機能、社会資源につながるハブ機能」の発揮
(1)ニーズや課題を掘り起こし、課題解決やイノベーションの創出に向けて、外に出ていく(アウトリーチ)ことを大切にします。
(2)協会が持つネットワークに加え、外部の人材・団体・企業と連携することにより、一団体では実現できないような新



- 3 「国内外への横展開と政策提言」
(1)いのちと環境を大切にしたいライフスタイルなど、「WITHコロナ、アフターコロナ」の社会の中での「新しい生活様式」に対応し、新たな社会像の発信を行います。
(2)社会実験と社会実装の成果を、アイデアの発信・事業提案・政策提言につなげます。



目次

協会のビジョン・ミッション・3つのアクション・理事長メッセージ	1
事業実績(数字で見る2021年度)	3
おもな事業内容	4
●京エコロジーセンター	5
・団体見学の受入	5
・中学生向けプログラムの作成	5
・パートナーシップを重視した企画展示	5
・エコセン主催イベント	6
・環境ボランティアの育成	7
・人材育成・大学生の環境活動支援	7
●さすてな京都	7
・エコ学区サポートセンター	8
・京都市ごみ減量推進会議	9
・京のアジェンダ21フォーラム	10
●国際事業	10
・調査研究・その他事業	10
・京都発脱炭素ライフスタイル推進チーム	10
・2050京創ミーティング	11
・みやこKAMADOKIプログラム	11
・再生可能エネルギーの普及	11
●講師派遣事業	11
・インフォメーション	12
・持続可能な社会づくりを目指して	13
・当協会独自の事業展開	13
・ごみ減量×福祉×地域緑化を	13
・つなげるプロジェクト	14
・ご寄附について	14
・賛助会員の募集について	14

表紙写真:【右上】エコセンで展示案内をする環境ボランティア【左上】川の生態系の保全に取り組む市民団体と鴨川でイベントを実施【中央右】えこそらキッズで冬野菜を収穫している様子【中央左】イベント「こんな未来になってほしい!大きな紙にみんなで描こう」の様子【下】国際事業でアジア・アフリカ7ヶ国の研修員がオンライン研修

環境学習・環境保全活動支援事業
京都市の環境学習施設「京エコロジーセンター」指定管理者「さすてな京都」運営メンバーとして、環境学習プログラムを提供しています。

地域環境活動支援事業
「エコ学区サポートセンター」「京都市ごみ減量推進会議」「京のアジェンダ21フォーラム」の事務局として、地域のエコ活動を支援しています。

国際事業
これまでの事業で積み重ねたノウハウを、海外での環境保全活動推進に役立てるため、研修受入や技術移転を行っています。

調査研究・その他事業
社会的課題に対応するための調査研究・社会実装を行い、新たな社会像を発信します。

講師派遣事業
環境学習、環境をテーマにしたワークショップ、セミナー等へ、当協会の職員を講師として派遣しています。

理事長メッセージ



公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会
理事長 新川 達郎

2021年度も多くの市民の皆様方、関係各位、そして職員の皆様に支えられて公益財団法人京都市環境活動推進協会として京エコロジーセンター（エコセン）の活動を活発に進めることができましたこと、ご報告を申し上げますとともに皆様に感謝申し上げます。

皆様のご尽力によりまして、新型コロナウイルス感染症の流行が繰り返された1年でしたが、感染症対策に注意を払いながらも、活動を少しずつ回復させることもできました。

この間、環境問題については喫緊の課題として更なる取組が求められるようになってきました。地球温暖化対策という観点では、気候変動という比較的客観的な表現から、「気候危機」が強調されるようになりました。産業革命以前の地球の平均気温からの温度上

昇を1.5度に抑制しようという方針が世界の共通目標となり、多くの国々や地域が2050年の温暖化ガスの排出と吸収のバランスを回復させるカーボンニュートラルを目標とすることになりました。

IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の2021年第6次評価報告書は、排出抑制への取組が進んでも、温暖化が進む限り気候変動への影響は大きいと予想しています。局的な気温上昇、海面上昇、台風や豪雨災害の頻発、それらによる人間生活や自然生態系への深刻な影響があるとされていますし、その一部はすでに私たちが経験しているところです。そして、温度上昇の原因が人間活動にあることも断定しているのです。

人間活動に起因する環境問題に対処するためには、一人一人が身近な地域や暮らしの場から取り組むことが必須です。協会とエコセンは、京都市民の皆様、関係事業者や市民団体の皆様そして京都市と連携し協働しながら環

理事長プロフィール

同志社大学名誉教授、総合地球環境学研究所客員教授。専門は行政学、地方自治論、公共政策論、環境政策論。早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程を経て、1993年から東北大学大学院情報科学研究科助教授、1999年同志社大学大学院総合政策科学研究科教授に転任し、2021年同志社大学名誉教授に就任。著書に『地域資源を活かす温暖化対策』（共著）や『レイチェル・カーソンに学ぶ現代環境論』（共編著）等。

事業実績

数字で見る2021年度

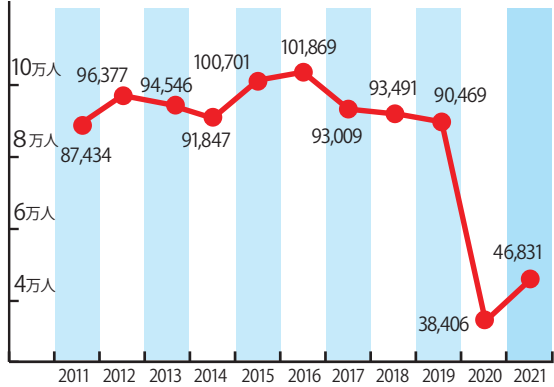
京エコロジーセンターの来館者数

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
全体来館数	87,434	96,377	94,546	91,847	100,701	101,869	93,009	93,491	90,469	38,406	46,831
団体見学	6,026	5,468	6,104	6,091	5,859	5,018	5,517	4,920	3,147	922	1,883
エコ学習	5,219	5,504	4,949	4,794	3,944	3,961	4,608	3,383	3,157	0	874
会議室等	4,987	4,807	4,430	4,359	4,894	5,114	5,158	4,880	5,998	2,337	2,756
一般来館者	71,202	80,598	79,063	76,603	86,004	87,776	77,726	80,308	78,167	35,147	41,318

※各年度3月31日の数値

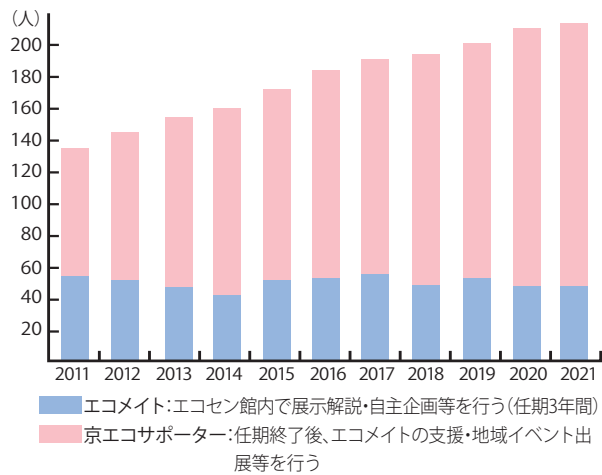
来館者数は2割増、団体見学者数は倍増

※前年度比



前年度同様、2021年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響により、臨時休館や開館時間の短縮を繰り返した1年でした。しかし来館者数は前年度比120%、団体見学者は200%と、少しずつコロナ禍以前の状況に戻りつつあります。今後、オンライン企画や館外へのアプローチを増やす等、さらなる工夫を重ねていきます。

環境ボランティア登録者数の推移



200名以上が環境ボランティアに登録

エコセンの特徴の一つは環境ボランティアの存在。人が介在する魅力的な展示・施設を目指しています。2021年度の登録者数は218名。自ら環境に配慮した暮らしを実践するボランティアが、入館者を温かくご案内しています。

持続可能な組織経営を目指して

当協会は、営利を目的としない公益財団法人として事業を実施しています。現状では、京都市委託事業収入が大半を占めますが、持続可能な組織経営に向けて、新たな事業展開にも挑戦していきます。

事業年度	2019	2020	2021
経常収益	304,466	265,754	261,015
経常費用	247,191	288,175	276,061
経常増減	57,275	- 22,421	- 15,046
経常外収益	0	0	0
経常外費用	0	0	5
正味財産増減	57,275	- 22,421	- 15,046
資産合計	192,639	161,247	151,175
負債合計	42,378	33,407	38,628
正味財産	150,260	127,839	112,547

（単位：千円）

正味財産増減の状況

境活動に取り組んできました。基本となる環境教育や啓発活動、国際協力や市民活動の支援、調査研究や政策提言などを進めてきました。しかしながら、2030年そして2050年の目標に向けて、立ち止まっている余裕はありません。これからもたゆまぬ努力を尽くしていかなければならないと考えています。

私は2021年7月に、前任の高月先生に代わって理事長に就任しましたが、就任1年目がとても速く過ぎて行った印象があります。取り組まなければならないことが山積していること、しかも中長期的に達成しなければならない目標に向けて着実に進めなければならないことがばかりだからだと思っています。

この1年間の私たちの取組の成果を報告するにあたり、今後に向けての協会の活動やエコセンの運営をさらに高いレベルで進めていくことをお約束して理事長メッセージしたいと思います。

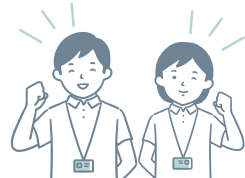
おもな事業内容

当協会が実施した「京エコロジーセンター（エコセン）」「さすてな京都」「エコ学区サポートセンター」「京都市ごみ減量推進会議」「京のアジェンダ21フォーラム」および国際事業、調査研究事業、講師派遣事業等を紹介します。

京エコロジーセンター

団体見学の受入

年間で57件（1883名）の受入を行いました。京都市立小学校を対象にした「エコ学習」については、前年度は新型コロナウイルスの影響により全て中止となりましたが、2021年度は32校（874名）の受入を行いました。また、オンライン団体見学を3件（370名）、京都市立の小中学校・児童館を対象にした出前講座を6件（404名）実施し、コロナ禍における幅広い学習ニーズに対応しました。



団体見学者に館内展示を案内している様子(7/14)

中学生向けプログラムの作成

中学生を対象に持続可能な消費行動をテーマにした「館内用プログラム」と館外で実施する「SDGs学習プログラム」を作成しました。両プログラムとも、次年度から積極的な活用を進めていきます。



京都市立中学校でSDGsに関する出前講座を実施（11/17）

パートナーシップを重視した企画展示

エコセンの企画展示コーナーでは、主催企画展示のみならず、団体や企業等とのパートナーシップによる共同主催型企画展も積極的に実施しています。2021年度は主催企画展示4件、共同主催型企画展示7件、企画展関連イベント2件を開催しました。



日本各地の海岸に実際に流れついた海ごみから環境問題を考える企画展示「海ごみミュージアム」（10/29～1/10）

◇企画展示（主催4件＋共同主催7件 計11件）

4/10～5/9	世界のこども環境絵画展（主催：当協会）
7/16～9/29	スパイスアップ！～環境意識を刺激する香辛料の魅力～（主催：当協会）
8/10～8/19	農業・農村のもつ大切な役割～農業・農村の多面的機能の紹介～（共催：近畿農政局）
8/13～8/24	キノコの女王「キヌガサタケ」（共催：京都市南部農業振興センター）
10/8～10/23	「整理収納アドバイザー」が伝えるお片づけからはじまるエコな暮らし（共催：ecoto 京都）
10/17～11/14	未来を守る作文コンクール2021～脱炭素社会に向けて行動しよう～（共催：（特非）気候ネットワーク）
10/29～1/10	海ごみミュージアム（主催：当協会）
12/8～1/11	みやこ KAMADOKI 展 2021（共催：京都・関西 SDGs ネットワーク-みやこ KAMADOKI プログラム-実行委員会）
1/11～1/31	エコドライブシミュレーター（共催：京都市地球温暖化対策室）
1/17～1/29	ボードゲーム「みんなのごみ」アクションカード展示 80のごみの減らし方（共催：（特非）環境安全センター）
2/4～7/10	京エコロジーセンター 20周年記念企画展（主催：当協会）

●エコセン主催イベント

環境に配慮したライフスタイル実践のきっかけをつくるため、年間39件のイベントを企画・実施しました。2021年度は、「2050年までに二酸化炭素排出量正味ゼロ」「グリーン・リカバリー」等社会情勢を意識し、また「オンラインイベント」と「来館イベント」を効果的に使い分けるとともに、積極的に中高生・大学生を対象としたイベントを企画・実施しました。通年型環境学習プログラム「えこそらキッズ」では、抽選で選ばれた小学1～4年生とその家族（40名）を対象に、屋上の田畑やビオトープでの活動を計11回行いました（緊急事態宣言中のオンライン配信を含む）。



江戸時代創業の京提灯屋を講師に迎えた「伝統工芸体験ワークショップ・ミニ提灯づくり」(2/26)

◇主催イベント 件数

来館イベント	21件
オンラインイベント	11件
オンデマンド配信	7件
小計	39件
えこそらキッズ	11件
合計	50件

◇主催イベント 参加者数

来館イベント	1,091名
オンラインイベント	209名
オンデマンド配信（再生回数）	1,367回
えこそらキッズ	延べ310名



夏休みにオンラインで開催した「子どもクッキング教室～自分でつくるカンタンごはん～」(8/15)



【えこそらキッズ】参加者がエコセン屋上の田んぼで稲刈りをする様子（10/16）



【えこそらキッズ】エコセン屋上で冬野菜を収穫し、みんなで記念撮影（1/8）

●環境ボランティアの育成

エコセンの大きな特徴は、環境ボランティア（エコメイト）の存在。館内の展示・設備の解説やイベント等自主



展示の解説を行う環境ボランティア（10/15）

企画の実施を担うエコメイトを、開館以来毎年募集し、年間を通じて職員が活動のコーディネーションを行っている。

2021年度は、ボランティア全体の活動意欲を高める場（マネジメントの会）を年間10回、最新の環境情報を活動へ活かすボランティア研修を年間12回実施しました。ボランティアによる自主企画は、年間で8件実施されました。

新規エコメイト養成講座は、感染対策として講座時間の短縮、動画配信、対面とオンラインの併用等をしながら全6回実施しました。申込者は53人、内修了者は38人で、全修了者がエコメイト22期に登録しました。

●人材育成・大学生の環境活動支援

自然エネルギーの普及啓発に関する担い手や環境保全活動のリーダー層を養成する連続講座として、6月9月に「自然エネルギー学校・京都2021」（オンライン開催／全5回）を、10月12日に「環境活動パワーアップ講座2021」（全5回）を実施。

さすてな京都

京都市南部クリーンセンターに設置された環境学習拠点「さすてな京都」の運営を、当協会と2社による連合体「さすてな京都運営コンソーシアム」として実施しました。

小学校4年生を対象とした社会科見学は、56校（3158名）を受入。コロナ禍により来館できない学校に対しては、動画と専用ワークシートを用いて、オンライン見学プログラムを32校（2074名）に実施しました。

また、京都市青少年科学センター・エコセン・さすてな京都をつなぐシャトルバスを運行し、伏見区環境学習拠点3施設の連携イベントも3件実施しました。



「京エコロジーセンター」「さすてな京都」で実施した事業の詳細（日程・参加人数等）は、左記のQRコードからご参照ください。（PDF ファイル「令和3年度事業報告書」）

▶<https://keaa.or.jp/wp-content/uploads/2022/07/令和3年度事業報告書.pdf>

エコ学区サポートセンター

京都市の元学区を単位とする222の地域コミュニティでエコ活動を促進することにより、環境にやさしいライ

フスタイルへの転換と、家庭部門でのCO₂排出量削減を目指す「エコ学区ステップアップ事業」。

当協会は京都市と協働し、2013年に「エコ学区サポートセンター」を開設し、エコ活動の相談窓口として学区を支援しています。

2021年度は、テーマを定め通年で継続的に学習会等を行う「エコ学区ステップアッププログラム」を松尾学区（西京区）、大原学区（左京区）の2学区で実施。単発の学習会を21学区（計442名参加）、ブース出展・ブース型学習会を21学区（計725名参加）で開催しました。

また、「2050年CO₂排出量正味ゼロに向けたまちづくり支援」として、「おさかな編」「おやさい編」「まちなか公園編」「再エネ率向上編」の4テーマのもと、NPO・企業・大学等の活動を発掘し、エコ学区活動とのマッチングや活動の伴走支援を行いました。



大原学区（左京区）の学童保育で、生ごみをミミズコンポストで肥料にし、花壇でブルーベリー栽培を開始（大原地域学童）



松尾学区（西京区）では、地域の環境や生態系について、動画やSNSで発信するための学習会を実施（10/21 松尾小学校）



【おさかな編】川の生態系の保全に取り組む市民団体と鴨川で生き物を探す親子体験イベントを実施（10/9）



【おやさい編】循環型農業を行う農園とサツマイモ掘りイベントを開催（10/31 伏見区・中嶋農園）

「エコ学区サポートセンター」「京都市ごみ減量推進会議」「京のアジェンダ21フォーラム」として実施した事業の詳細(日程・参加人数等)は、下記のQRコードからご参照ください。(PDFファイル「令和3年度地域環境活動支援」)



▶ <https://keaa.or.jp/wp-content/uploads/2022/11/令和3年度地域環境活動支援.pdf>



当協会が共同開発した「京都市版SDGsボードゲーム」の交流会&体験会を実施(10/10キャンパスプラザ京都)

当協会が事務局を担っている「京のアジェンダ21フォーラム」は、1997年に策定された持続可能な社会に向けた京都市の行動計画「京のアジェンダ21」の推進組織で、市民・事業者・行政が参画するパートナーシップ組織です。

2021年度は、グリーン金融や市民参加についての勉強会やウェビ

京のアジェンダ21フォーラム



【まちなか公園編】大宮交通公園(北区)に樹木と木質バイオマスに親しむブースを出展(12/25)



【再エネ率向上編】家庭で太陽光発電・太陽熱利用等のセミナーを開催(10/9伏見区・桃山会館)

京都市ごみ減量推進会議

当協会は「京都市ごみ減量推進会議」の事務局を担っています。同会議は、市民団体・事業者・専門家・京都市等が対等に参画するパートナーシップ団体。「普及啓発」「ごみ減量事業化」「地域活動」「2R型エコタウン構築」の4つの部会に分かれて活動しています。

2021年度、普及啓発イベントではオンラインを併用し、企業向け(3回431名)、子ども向け(3回50名)、市民向け(生ごみコンポストにかかる講座・講習会・実践等282名)を実施しました。また、食品ロス削減をテーマに、同志社大学政策学部小谷ゼミの協力を得て動画を作成。SNSでの発信やオンラインイベントに出席し、約1000名の方にアプローチできました。

ごみ減量事業化の取組としては、ごみ減量活動への助成金交付(10件・計265万円)、秘密書類リサイクル(年991トン回収)等を実施しました。

地域活動については、京都市内に202団体ある「地域ごみ減量推進会議」の活動を支援。特に生ごみたい肥の取組が地域に広がりました。

国際事業

ナリーを開催しました(3回59名)。また、(二社)未来技術推進協会が開発したボードゲーム「Sustainable World Boardgame」を基にした京都市版のSDGsボードゲームを完成させ、交流会&体験会を開催しました。

当協会では例年、海外の行政職員等を迎え、環境教育や廃棄物管理等について1~2ヶ月に渡る研修プログラムを実施しています。

2021年度は、JICA課題別研修「循環型社会構築のための固形廃棄物管理」について、コロナ禍で実施が延期になった前年度ポルトガル語コースと、2021年度英語コースを、いずれもオンラインで実施しました。

2021年3~11月に、ポルトガル語コース4名(ブラジル2名、モザンビーク2名)、8~10月に英語コース10名(パ



アジア・アフリカ7ヶ国の研修員がオンラインでレポート発表(8/25)

2R型エコタウン構築については、「京都から減プラ市民行動」等プラスチックごみに関するイベントを3回開催し、京都市まち美化事務所職員を対象としたプラスチック問題に関する学習会に3回出講しました。また、京都の修理・リユースのお店を紹介するウェブサイト「もっぺん」の運営を行いました。



市民向け講座として、生ごみたい肥のつくり方についてレクチャーを実施(9/5左京区・三宅集会所)

調査研究・その他事業

京都発炭素ライフスタイル推進チーム「2050京創ミーティング」

2021年度、若者を中心とする市民・事業者・学識者等により「京都発炭素ライフスタイル推進チーム」2050京創ミーティング」が結成されました。このチームは、2050年の京都にふさわしい脱炭素型のライフスタイル像や、その実現に向けた今後10年の目標・アクションを創ることを目指しています。

当協会はこの事務局を務め、推進チーム会議を2回、ワーキンググループ会議を6回、市民ワークショップを1回開催しました。



京都発炭素ライフスタイル推進チーム(2050京創ミーティング)の第1回推進チーム会議(9/7 QUESTION)



公式HPはこちら

▶ <https://doyoukyoto2050.city.kyoto.lg.jp>



2R講座「京都のプラごみ削減活動団体と出会う日」の様子(11/28エコセン)



子ども向け講座として、エコバッグ(あづま袋)づくりのワークショップを開催

インフォメーション

公益財団法人
京都市環境保全活動推進協会 HP
<https://keaa.or.jp/>



● 住 所 〒612-0031
京都市伏見区深草池ノ内町13 京エコロジーセンター内
☎075-641-0911 FAX 075-641-0912

京エコロジーセンター(京都市環境保全活動センター)

- 開館時間 9時～21時(1・2階展示は17時まで)
- 休館日 木曜日(祝日の場合は翌平日)
- アクセス 【京阪電車】
藤森駅:下車、西へ徒歩約5分
【地下鉄・近鉄】
竹田駅:下車、東へ徒歩約12分
【市バス】
105・南5・臨南5・南8
「青少年科学センター前」
下車、南へ徒歩約2分



● 役員名簿 (敬称略・50音順・2022年6月21日現在)

理 事 長	新川 達郎	同志社大学名誉教授
専務理事	辻 智之	公益財団法人 国立京都国際会館総合戦略広報監
理 事	枚本 育生	認定特定非営利活動法人 環境市民代表理事
	田浦 健朗	認定特定非営利活動法人 気候ネットワーク事務局長
	高野 拓樹	京都光華女子大学学長特別補佐 教授
	中田富士男	京都市ごみ減量推進会議会長
	永田 綾	京都市環境政策局地球温暖化対策室 エネルギー政策部長
	橋本 直子	株式会社 Hibana 代表取締役
	花田真理子	大阪産業大学大学院 人間環境学研究所教授
	原 強	京都循環経済研究所所長
	久山喜久雄	フィールドソサイエティー代表

監 事	野村 克章	税理士
	水口 重忠	元京都市伏見区長
評 議 員	市川 智史	滋賀大学教授
	上羽 尊浩	公益社団法人京都青年会議所 副理事長
	周 瑋生	立命館大学政策科学部教授
	田中 克	京都大学名誉教授
	永橋 爲介	立命館大学産業社会学部教授
	西本 清一	公益財団法人 京都高度技術研究所理事長
	南山 泰宏	京都教育大学 環境教育実践センター教授
	村上 圭子	公益財団法人京都文化交流 コンベンションビューロー専務理事
	森田 淳	株式会社京都銀行公務・地域連携部 観光・地域活性化室長

本報告書に掲載した情報以外にも様々な情報を発信しています。

● 京エコロジーセンター <https://www.miyako-eco.jp>

- ▶ ブログ <https://www.miyako-eco.jp/blog/>
- ▶ Facebook <https://www.facebook.com/miyakoeco>
- ▶ Twitter https://twitter.com/miyako_eco
- ▶ YouTube



- さすてな京都 <https://sustaina-kyoto.jp/>
- エコ学区サポートセンター <https://www.ecosien.org/>
- 京都市ごみ減量推進会議 <https://kyoto-gomigen.jp/>
- 京のアジェンダ21 フォーラム <http://ma21f.jp/>



↑エコセン YouTube では、環境に配慮した料理レシピの動画も紹介しています。



みやこKAMADOKI プログラムのオリエンテーションで20名が「京都市版SDGs ボードゲーム」を体験(8/7 キャンパスプラザ京都)

● みやこKAMADOKI プログラム

このプログラムは、学生がSDGs を実践的に学ぶ連続講座です(文部科学省「令和3(2021)年度ユネス

コ活動費補助金SDGs 達成の担い手育成(ESD)推進事業」。

記事づくりに挑戦する「SDGs スタジオプラス」、企業等に企画提案する「SDGs アクト」の2コースと、共通講座「SDGs シンカゼミ」があり、大学や学科の枠を超えた学生が、7、9月の2ヶ月に渡って参加しました。昨年度に引き続きオンライン中心の活動になりましたが、「スタジオ」では学生たちが新聞記者からプロのスキルを学び取材活動を行い、「アクト」ではエコセン等での業務について企画提案を行いました。

● 再生可能エネルギーの普及

京都市・京都府が再生可能エネルギーの普及拡大を目指して創設した、初期費用ゼロで太陽光発電設備を導入する「京都0円ソーラープラットフォーム」の事務局を担当し、広報・問い合わせ対応等を行いました。



京都0円
ソーラー
プラットフォーム
▶ <https://kyoto-pv-platform.jp>



みやこ
KAMADOKI
プログラム
▶ <https://kamadoki.net>

講師派遣事業

当協会では、外部のセミナー等に講師を派遣しています。2021年度は左記のとおり講演・講義・ワークショップ・事例発表等を行いました。

日程	事業名	主催
6/20	大阪市エコボランティア研修「入門編」	(一財)環境事業協会
7/22	夏休み工作教室 「ペットボトルでマイ風力発電機を作ろう」	城南衛生管理組合
9/16	第46期 ボランティアコーディネーター養成講座 新任ボランティアコーディネーター基礎研修	日本ボランティアコーディネーター協会 大阪ボランティア協会
10/3	インドネシア共和国 バンドン工科大学・パティムラ大学の学生への 「持続可能なエネルギー資源の未来デザイン」 オンライン講義	総合地球環境学研究所 SRIPROプロジェクト
10/17	南部クリーンセンター見学と SDGs 講演会	(一社)京都府建築士会青年部会
10/18	地球環境基金助成金説明会	(独)環境再生保全機構
10/24	ボランティアコーディネーション力検定	日本ボランティアコーディネーター協会
11/7	咲くやこの花館イベント 「刺激! スパイスのひみつ〜スパイスは植物だ〜」	(一社)大阪スポーツみどり財団
11/10	SDGs 勉強会	京都洛北ライオンズクラブ
11/26	2021 年度 JICA 課題別研修 「博物館とコミュニティ開発」	国立民族学博物館
12/6	2021 年度 NGO ワークショップ	立命館大学国際平和ミュージアム
12/8、2/26	ハイレックス講座特別企画	佛教大学オープンラーニングセンター

ご寄附について

当協会のごみ減量に対する取組を進めるため、事業者様・団体様・個人の方からご寄附をいただきました。厚く御礼申し上げます。

いただきました寄附金は、市民の皆さまからご提案いただいた、ごみ減量・リサイクルに関する地域活動に対する助成金の財源の一部に活用させていただきました（以下の10団体に交付）。

そのほか、これまでも、ふろしきをレジ袋に替えてご活用いただくため、ふろしきエコバッグの活用ワークショップの実施や展示等に活用させていただいております。

今後とも、持続可能なまちづくりに邁進してまいります。

◇ 寄附金活用先「市民等からの提案によるごみ減量モデル事業」（助成金事業）

団体名	事業名
おむつなし育児研究所京都サロン	おうちでできるエコライフ！おむつで暮らしを豊かにしよう
株式会社 応用芸術研究所	地域・多世代連携で家庭内ストックを削減するリユースモデルのDX化推進
特定非営利活動法人 コンシューマーズ京都	「プラごみ減らす知恵袋」製作と学習＆啓発事業
SKY オールボランいどり（彩）	ボランティア活動を楽しみ、ごみ減量にも楽しく取り組みます
生活協同組合 生活クラブ京都エル・コープもり部	京都の自然と輪っかになろう～もり・つち・たべもの
特定非営利活動法人セカンドハーベスト京都	食品ロス削減のための出前授業
NPO 法人 地域共生開発機構ともつく	ペットボトル花風車など、廃材アートが創る多世代交流の場
一般社団法人 ふろしき研究会	Let's SDGs with FUROSHIKI ふろしきで SDGs！
桃山エコ推進委員会	ごみ減量のエコ地域づくり～学区内・学区外のネットワーキングを推進する～
Ladies' Eco Circle プラムロード	エコおばちゃん 2021 プロジェクト With Covid-19

ご寄附をいただいた皆様



イズミヤ 株式会社様



イオンリテール
株式会社様



日本環境保護国際交流会様

左記の事業者・団体様の他、小山恵美子様、他1名の方からご寄附をいただきました。

賛助会員の募集について

当協会は設立から20年を迎えました。この間、京エコロジーセンターという環境学習施設の運営を通じ蓄積してきたノウハウなどを活用して、様々な関係団体の皆様はもとより民間事業者の皆様とも連携しながら、脱炭素社会・循環型社会・自然共生社会の実現に向け取組を進めてきました。

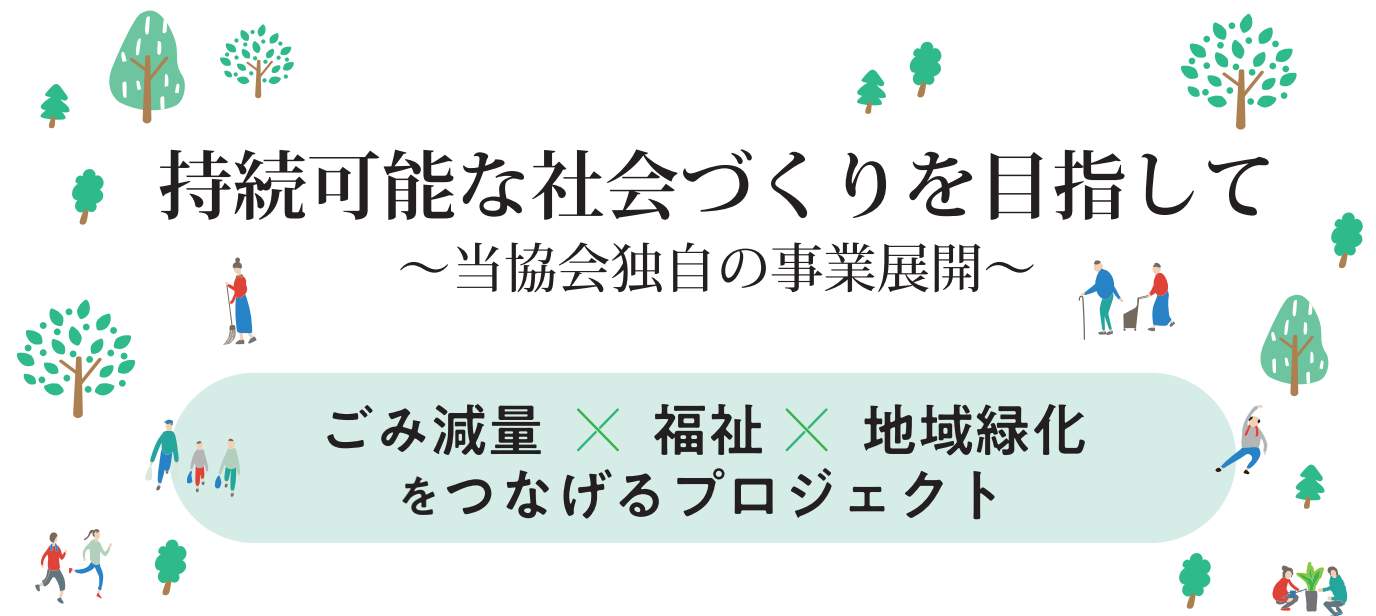
このたび、より一層、持続可能な社会づくりに寄与していくため、協会が独自に進める活動にご賛同いただける「賛助会員」を2022年度から募集しております。

- ◇ 年会費（年度毎） ● 個人 一口3,000円から
● 企業・法人 一口5,000円から

公益財団法人である当協会へのご寄附、賛助会員会費には、税制上の優遇措置があります（所得税法施行令第217条「特定公益増進法人」）。ぜひご支援賜りますようお願いいたします。詳細は、ホームページのメールフォーム、電話等にてお気軽にお問い合わせください。



ホームページはこちら
<https://keaa.or.jp/donation>



認知症啓発のシンボルカラー「オレンジ色」のマリーゴールドを、アップサイクルプランターと落ち葉たい肥で育成している様子



廃棄消防ホースをアップサイクルしてつくったプランターは、京都市立芸大生がデザインし、福祉作業所で縫製を行った。

認知症啓発の取組である「オレンジガーデニングプロジェクト」と連携し、使用済み品をアップサイクルしたプランターと落ち葉たい肥を使った地域緑化を、地域のステークホルダーの皆様のご支援を得て実施する、SDGsを意識した持続可能なまちづくりに寄与する取組を2022年度7月から本格実施するため、準備を進めました。

具体的には、下京区内の消防団等で使用されていた廃棄予定の消防ホースをプランターにアップサイクルして活用します。プランター製作は、「加音西京極製作所」様に発注し、障がい者の就労支援につなげます。製作したプランターは区社会福祉協議会を通じて、社会福祉施設などに提供します。また緑化の際の肥料には落ち葉たい肥を活用することとしています。3年間で約100個のプランター、約1,200ポットの花苗を提供し、下京区の緑化に貢献します。

地域のステークホルダーの皆様のご支援として、京都市立芸術大学プロダクトデザイン専攻学生にプランターのデザインを依頼。土づくりは京都教育大学環境教育実践センターに担っていただくほか、プランターの搬送には京都かんきょう様にボランティア協力していただきます。さらに以下の企業の皆様から協賛金等のご支援をいただいております。

本プロジェクトのご協賛企業



タキイ種苗株式会社

タキイ種苗株式会社様



TAKENAKA

株式会社竹中工務店 京都支店様



Matsumura 株式会社松村組

松村組・要建設特定建設工事共同企業体様



要建設株式会社



株式会社きんでん 京都支店様



新菱冷熱工業株式会社様



2021

事業報告書

公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会

〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13 ☎ 075-641-0911 FAX 075-641-0912



2021年度、当協会の取組に対し、上記の事業者・団体様、小山恵美子様、他1名の方から
ご寄附、ご協賛をいただきました。厚く御礼申し上げます。



- 用紙：適切に管理された森林の木材を利用したFSC®認証用紙
- インキ：環境配慮型インキ(植物油インキ・ノンVOCインキ)
- 印刷：有害な廃液を排出しない水なし印刷